

線量測定と計算

事故後の追加被ばく線量（計算例）

平常時の値を差し引く事が重要

線量率（事故による上昇分）：
マイクロシーベルト/時
 $0.24 - 0.04$ （仮） = 0.2

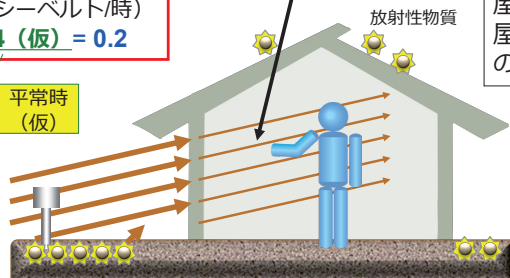
実測値
（例）

平常時
（仮）

低減係数 0.4

放射性物質

滞在時間
屋外 **8時間**
屋内 **16時間**
の場合



0.2×8 時間（屋外の方）
+
 $0.2 \times 0.4 \times 16$ 時間（屋内の方）
（マイクロシーベルト/日）

$\times 365$ 日 $\doteq 1,100$ マイクロシーベルト/年
 $\doteq 1.1$ ミリシーベルト/年

サーベイメータで計測される空間放射線量率には、自然界からの γ （ガンマ）線も含まれています。もし福島第一原発事故による放射線量のみを算出する場合は、今実測される空間放射線量率から、福島第一原発事故前の計測値（バックグラウンド値）を引き、事故による上昇分を求めます。事故前の値は、ホームページ「日本の環境放射能と放射線（<http://www.kankyo-hoshano.go.jp>）」で調べることができます。

こうして屋外と屋内の空間放射線量率がわかれば、それぞれに、屋外で過ごす時間や屋内で過ごす時間を乗じて、1日分の被ばく線量や1年分の被ばく線量を求めることができます。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2015年3月31日